

たまご

(毎月1回発行) 発行人町長 坂本常蔵

昭和38年 1月23日 第三種郵便物認可
印刷所 さんゆう社印刷 定価20円

人口と世帯数

49年 5月1日現在
(単位・戸、人)
総人口 13,899人
男 6,823人
女 7,076人
世帯数 3,085戸

紺綬褒章

大和田熊蔵さん受く

— 貴い私財を町に寄附 —

望郷の思いをこめて、故郷である、当玉造町の発展のために、多額の私財をいくたびも御寄附なされた大和田熊蔵さんが、このたび、晴れて、紺綬褒章をお受けになりました。紺綬褒章は、公益のために私財を寄附し、その功績が顕著な人、又は団体に贈られるものです。大和田さんは、当町、浜の出身で、現在、東京製糖株式会社社長、若くして東京に出て苦労をなさり、今日の財を築き上げた、謂わば昭和立志伝中の人です。その間、故郷を思う心抑え難く、戦前、母



大和田熊蔵さん近影

大和田熊蔵さんの経歴
明治38年 3月6日、行方郡立花村大字浜817番地に、大和田作二郎さんの長男として、出生。

現在、東京製糖株式会社社長。住所、東京江東区大島8丁目21-20

町では、この大和田翁の篤志に少しでも報いるため、県知事を通じて、昭和48年4月28日付を以って、国に褒章の内申をおこない、これが認められて、めでたく受賞と相成った次第です。

校である浜小学校に、国旗掲揚塔を御寄附なされたのを、皮切りに、戦後、浜小学校、玉造小学校、玉造中学校、玉造工業高校に、主として施設や設備充実のため、多額の私財を御寄附なされました。特に浜小学校が、玉造西小学校と変った時には、50万円も、御寄附なされました。この外出身地浜部落の素鷲神社、東福寺にも、御寄進なされました。



紺 綬 褒 章

褒章伝達式行なわる

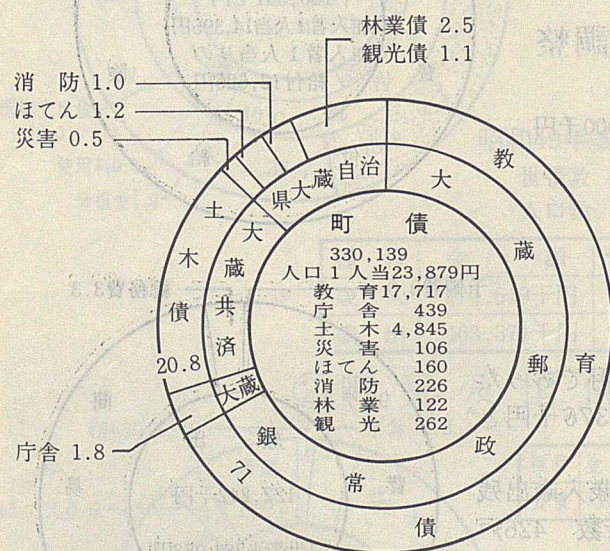
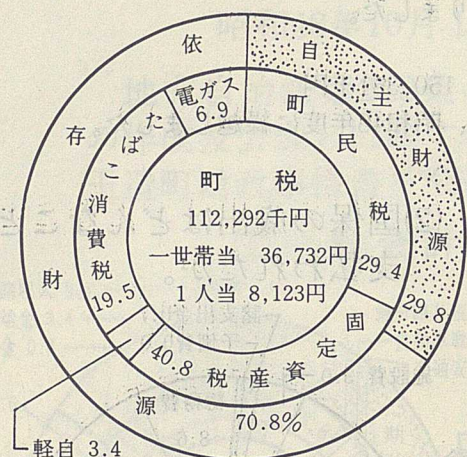
五月晴れの、四月二十九日、褒章の伝達式が、中央公民館にて、とりおこなわれました。大和田翁は、折悪しく健康がすぐれず、名代として、御長男、奥さんが、御出席なされました。式が始まり、伝達に続いて、町長があいさつに立ち、玉造工業高校誘置の際、大和田さんを訪れた時のエピソードを交えながら、郷土発展のために多大なる貢献をなされた翁の徳行を讃えあわせて、翁の御健康を祈りました。このあと、来ひんの祝辞が続き、和やかな雰囲気の中に、式は幕を閉じました。

名代として、褒章を受ける

御長男 一雄氏



(3)私たちはこの一年間にどのよ (4)私たちの税はどうなっているか
うな町税を納めたか。



機 械 器 具	基 本 財 産
ダンプカー 大 ² 小 ²	財政調整基金 1,264千円
ライトバン 2	基 本 財 産 502千円
乗 用 車 1	有 価 証 券 807千円
消 防 車 6	出資による権利 5,075千円
ロ ー ラ ー 1	債 権 452千円
ショベルローダー 1	貸 付 金 1,000千円

税 費	金 額	一 世 帯	人口一人当
町 民 税	33,006	10,796	2,387
固定資産税	45,787	14,977	3,311
軽自動車税	3,833	1,253	277
たばこ消費税	21,927	7,172	1,586
電 ガ ス 税	7,739	2,531	559
そ の 他	0	0	0
計	112,292	36,732	8,123

(7)町有財産の現況

土	地
役 場 敷 地	6.797m ²
警察消防施設	248m ²
学 校	110.872m ²
公 民 館	2.813m ²
公 営 住 宅	6.376m ²
旧 中 学 校	15.135m ²
その他施設	24.758m ²
山 林	10.850m ²
原 野	22.016m ²
そ の 他	41.832m ²
計	241.697m ²
建	物
庁 舎	1.053m ²
警察消防施設	366m ²
学 校 幼 稚 園	19.007m ²
公 営 住 宅	595m ²
公 民 館	2.167m ²
その他施設	558m ²
そ の 他	2.198m ²
計	26.625m ²

昭和47年度決算のあらまし

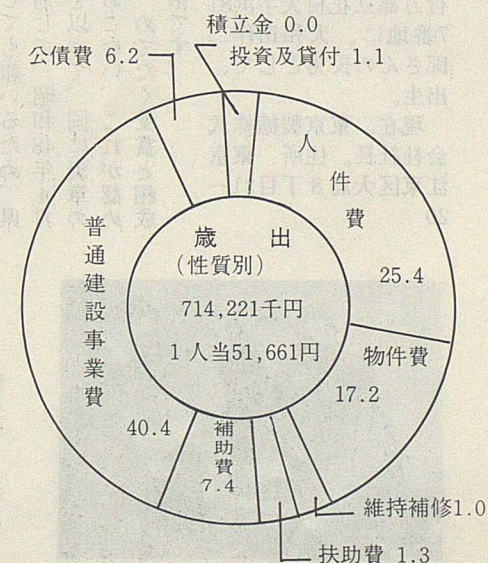
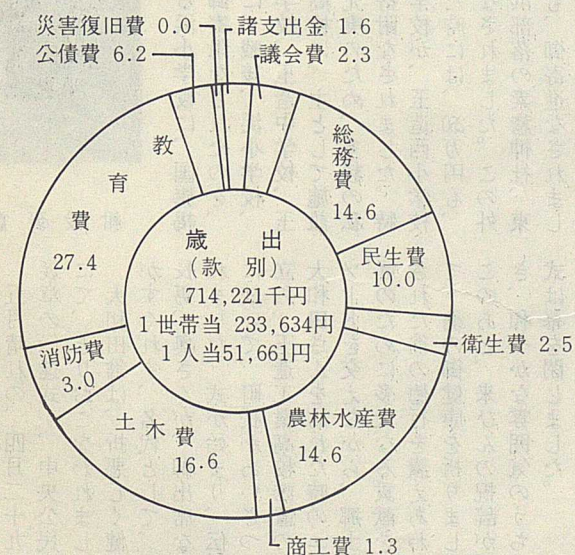
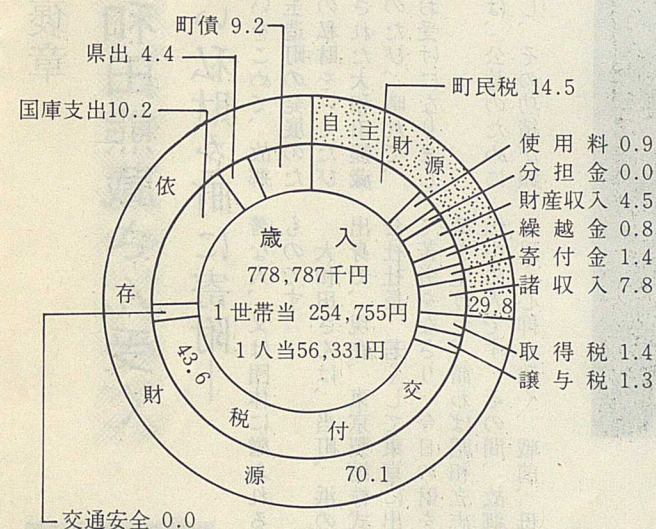
地方自治法第233条第5項の規定に基づき、昭和47年度の決算のあらましを次のとおり公表いたします。

一般會計

昭和47年度の一般会計は、当初、712,100千円の規模でしたがその後8回の補正により最終予算額は776,873千円でした。これに対し決算は、

歳入	778,787千円
歳出	714,281千円
差引残額	64,506千円
うち基金繰入	30,000千円
歳入歳出差引	34,506千円は、昭和48年度に繰越しました。

参考
昭和48年 3 月31日現在
世帯数 3,057
人口数 13,825

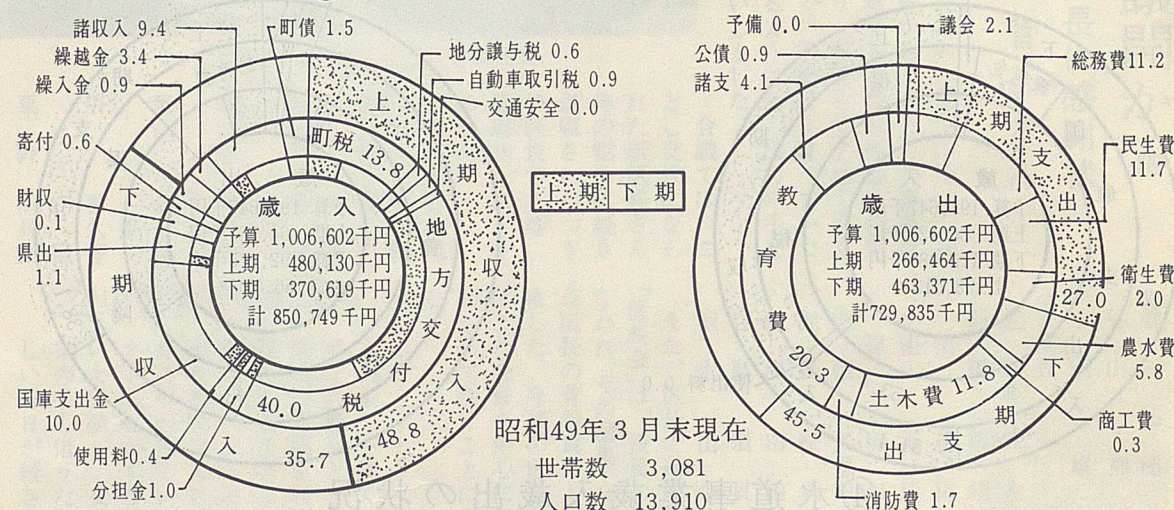


財政事情書

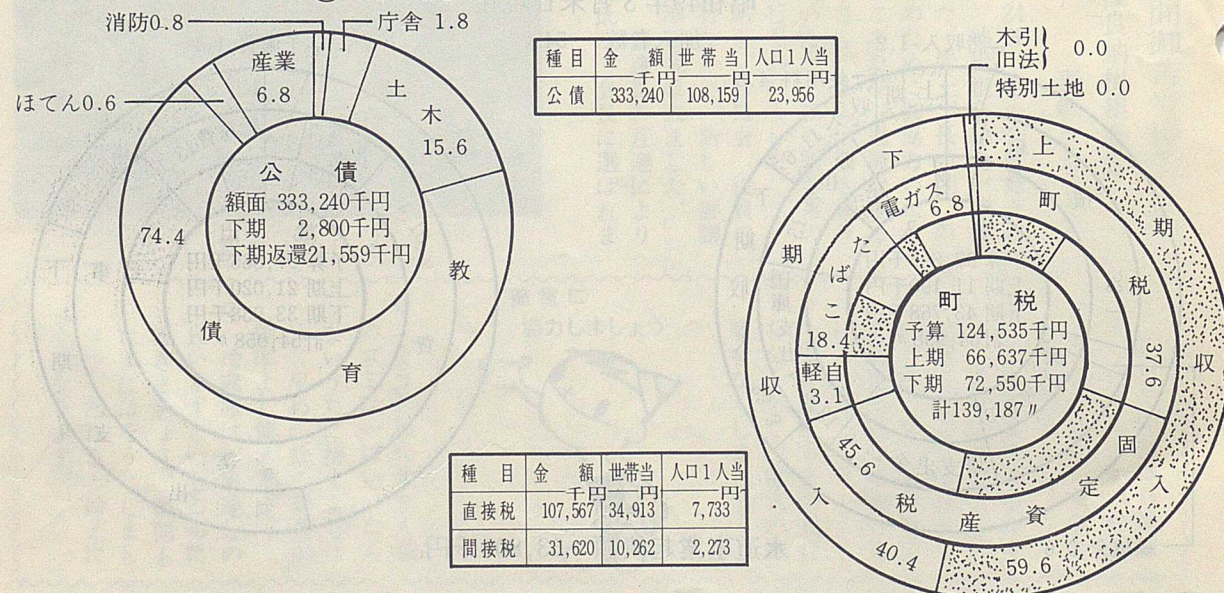
昭和48年10月1日～昭和49年 3 月31日

地方自治法第243条の3項にもとづく「財政事情書の作成及公表」に関する条例のさだめるところにより、玉造町財政事情書を公表いたします。

①一般会計の歳入歳出の状況



②町税及国債の状況



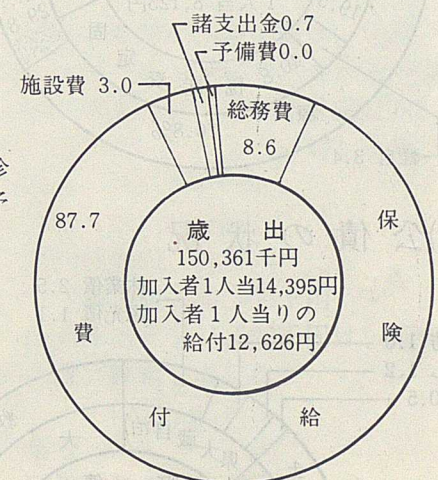
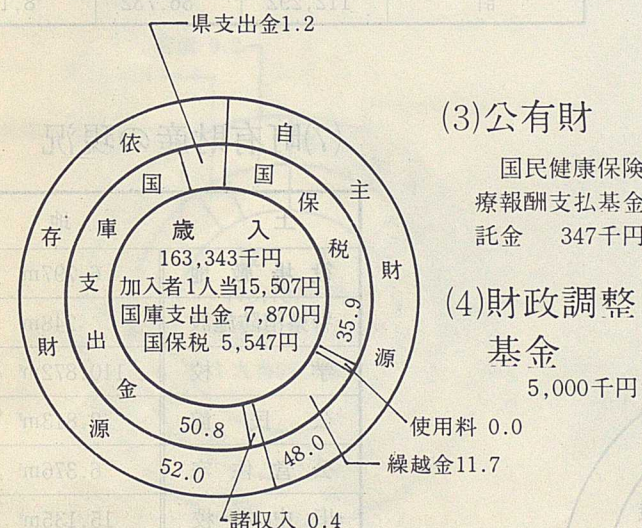
②国民健康保険特別会計

昭和47年度国保特別会計は、当初145,944千円であったが、その後2回の補正により最終予算は159,234千円となりました。

これに対し、決算は
 歳入 163,343千円 歳出 150,361千円
 歳入歳出差引残金12,982千円。差引残金は、昭和48年度に繰越しました。
 参考 被保険者数 10,533 (加入者)

(1)私たちの国保は、どんな財源から成り立っているか。

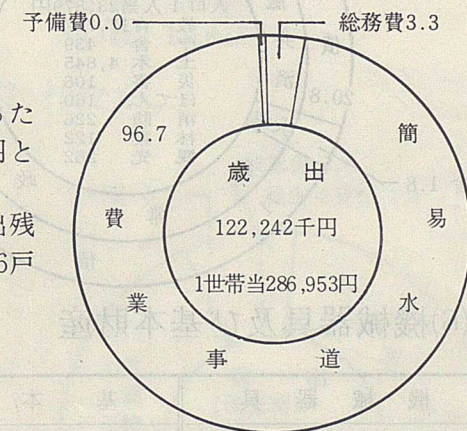
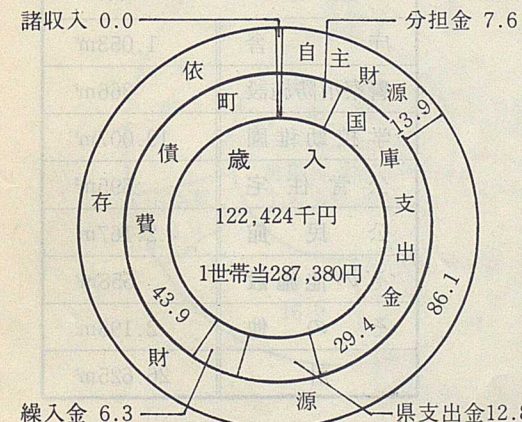
(2)国保の歳出はどんなことに支払われたか。



③水道特別会計

昭和47年度水道特別会計は、当初146,200千円であったが、その後1回の補正により最終予算は、129,376千円となりました。決算については次のとおりです。

歳入 122,424千円 歳出 122,242千円 歳入歳出残 182千円 昭和48年度へ繰越 参考 加入世帯数 426戸



昭和47年度の決算のあらましを申し上げましたが、私は皆様方の御協力を得て地方自治の本旨に則りあらゆる方途を講じ、町民皆様の福祉と、町勢発展のため積極的に、町勢の運営をはかっていく決心であります。

町民の皆様の深い御理解と力強い御力添えをお願いします。

昭和49年 3 月31日 玉造町長 坂本 常蔵

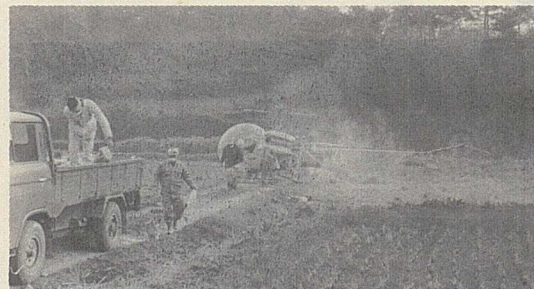


町長から、表彰を受ける前区長

栗 甲 堤 堀 曾 理 鈴木
野 田 根 崎 木
清 喜 武 小 市 豊 新 農 荒
兵 久 里 座 宿 蔵 田 夫 宿
衛 寿 雄 郎 蔵 田 夫 宿

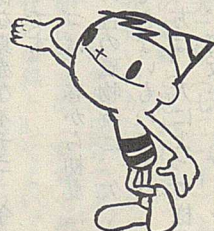
空中農薬散布始まる

朝もやを衝くヘリコプターの轟音とともに、農繁期の開幕を告げる農薬散布が始まりました。これは、ウンカその他の害虫を駆除するため、毎年おこなわれているものです。これがすむと、いよいよ田植え、文字通り、猫の手も借りたい程の忙しい毎日が続きます。



芹沢地内にて

節電に協力しましょう



- 電気の80%は石油からつくられます。石油は、日本にない貴重な資源です。
- この貴重なエネルギー、電気はみなさんの生活になくてはならないものです。みんなで電気を節約して使いましょう。
- 街灯はひるまの点灯をなくして、電気の無駄をなくしましょう。
- そうじ器の集じん袋のゴミは一ぱいにならないうちに捨てましょう。早めに捨てる方が効率よく使えます。
- 冷蔵庫は、風通しの良いすずしいところに置きましょう。裏側もたまにはそうじしましょう。汚れると冷えにくくなります。

第一回区長会議開かる

十名の退職区長に感謝状 区長会長に菅谷さん

ことし第一回の区長会議は四月十二日に公民館において開かれ、町政の第一線に立っておられる区長さん方に今年度の町事業に対する協力を、お願いしました。

町長のあいさつに続いて各課長等から、ことしの事業計画に対する姿勢を中心に説明があり、町政をすすめていくうえでの手助けとなっていただけのようにと、協力の手を

会議では、ことし交代になられた新区長さん等の紹介に続き、退職されたつぎの区長さん等に感謝状をおくりました。

△新区長
小 谷 原 山 田 祐 種
新 宿 田 正 雄
荒 宿 田 鈴 木 吉 衛
若 宿 田 久 保 田 吉 生
加 宿 田 松 沢 文 蔵
内 宿 田 坂 堀 田 沼 崎 清 吉
若 宿 田 須 田 山 富 弥 章 作 吾 蔵 吉 衛
谷 宿 田 山 中 倭 男 亨 弥 茂 章 作 吾 蔵 吉 衛
羽 宿 田 山 中 倭 男 亨 弥 茂 章 作 吾 蔵 吉 衛

永い間御苦勞様でした — 優良納税組合長 —

表彰さる

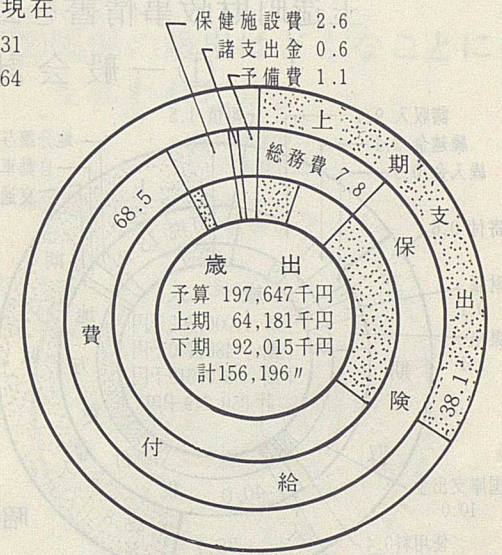
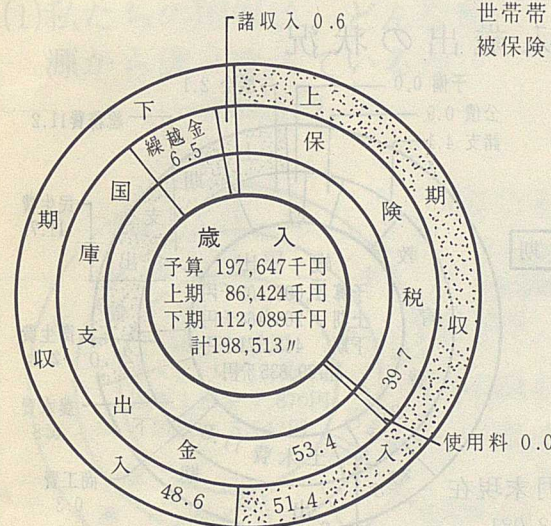
4月24日、中央公民館大ホールで、納税組合総会が開かれました。席上、長い間、町の納税のために御協力いただき、このたび、退職なさる組合長さん、さらに引き続き御協力いただく組合長さんの表彰が行なわれました。このあと、研修会、役員の新選が行なわれ、新しい評議員、監事が選ばれました。後日、評議員の互選により中野勇氏が、会長に選ばれました。

③国民健康保険の歳入と歳出の状況

種目	金 額	世 帯 当	人口1人当
歳 入	198,513	81,658円	19,340円
歳 出	156,196	64,251	15,217
保険税	78,618	32,339	7,659

昭和49年 3月末日現在

世帯数 2,431
被保険者数 10,264

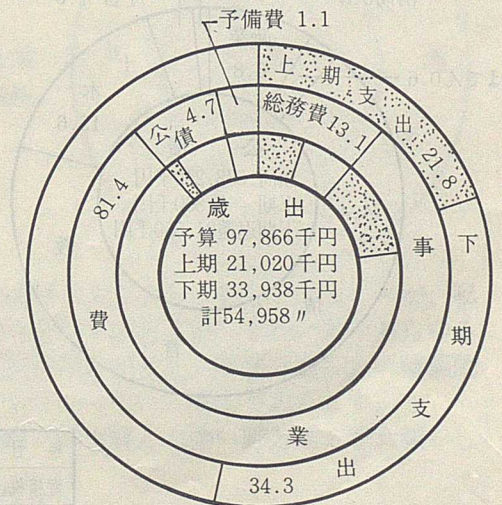
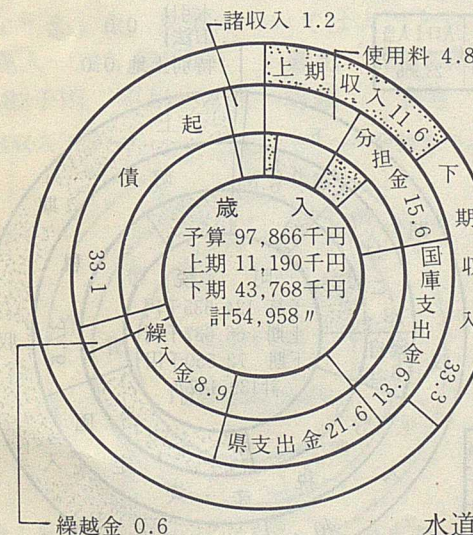


④水道事業歳入歳出の状況

種目	加入世帯当
歳 入	79,723円
歳 出	61,817円

昭和49年 3月末日現在

加入者数 549



水道事業起債額 53,800千円

附加年金に加入しましょう

こんど国民年金が改正され年金額が大巾に引上げられました。25年納めて、月2万円ですが（さらに9月には、物価スライド制が実施され、年金額が増額になる予定です。）

もし、これより多い額を希望する方には、附加年金を、おすすめします。これは、定額の保険料のほかに余分に保険料を納めていただくと、200円×附加年金納付月数＝附加年金額分だけ多く支給されるしくみです。

例えば改正によると保険料は900円（定額分）＋400円（附加保険料）＝1,000円納めた場合は、25年で、月2万円＋5,000円＝25,000円が支給されます。この附加年金は国民年金で保険料の免除を受けている人を除けば誰れでも加入できるようになりました。附加年金に加入して、より多い年金を受けるようにいたしましょう。



玉造小での点検のようす
新学期を迎えて、玉造小学校では、自転車通学の児童のための整備点検が行なわれました。この日は、町の交通安全協会のお父さん、母の会のお母さんらが中心となって、ブレーキの効き具合、スコープライト（夜行反射板）などを主に、点検を行ないました。

安全意識が高まってきているせい、結果は、概ね良好とのことでした。

整備は万全ですか

―自転車整備点検―

旗・炬火リレー

―国体ガイド―

鹿島神宮で古式に則り、火鑽杵（ヒキリギネ）と、火鑽白（ヒキリウス）とをすり合わせて採火された伝統の火は、鹿島コースを辿って、水戸へと向います。

この程、当、玉造町を通過する、日時、順路が、具体的にになりましたので、紹介します。



定期講座めぐり

中央公民館では、今、誰でも気軽に参加できる定期講座を開いています。飽くことなき好奇心に駆られた広報子は、その中の、写真教室、料理教室を、垣間見てきました。

区間順序	区間（中継地名）	距離	所要時間	走者予定団体名
1	工業団地入口～ナイルス工場前	1.3	7分48秒	玉造町連合青年団
2	ナイルス前～山野宅前	2.0	12分	玉造工業高校生
3	山野宅前～現原小学校前	1.0	6分	現原小・羽生小
4	現原小～現原農協前	1.5	9分	玉造中学校
5	現原農協前～亀岡入口	1.1	7分12秒	一般町民（30歳以上）
6	亀岡入口～玉造第一保育所前	1.0	6分	玉造小・玉造西小
7	保育所前～玉造役場前	1.5	9分	玉造中学校
8	玉造役場前～竿台スタンド前	1.6	9分36秒	高小・玉造中
9	竿台スタンド～手賀小学校前	1.2	7分12秒	手賀小・玉川小
10	手賀小～川井商店前	1.1	6分36秒	手賀小・玉川小
11	川井商店～玉川小入口	1.7	10分12秒	玉造町連合青年団
12	玉川小入口～舟	2.0	12分	一般町民（30歳未満）

料理教室

天、二物を与えずんばまず食欲、料理教室、今日の献立は節句を目前に控えての寿司アラカルトです。塙さだ子先生指導の下に、松竹梅の太巻をつくるのですが、やってみると、これがなかなかの難事、快心の作とばかりに、包丁を入れてみると、いつのまにか松の模様がケヤキになってしまつて、一同、思わず爆笑してしまいました。このあと、傑作を賞味して、料理教室も、にぎやかなうちに終わりました。

写真教室

写真教室では、高野せいぎ先生を囲んで、生徒の皆さんが、自分達で撮った写真を見ながら意見を交換し合っていました。合評のあとは、実技、当日は、近接撮影がテーマに取り上げられ、バラの花をモデルにして、熱心に、ファイ



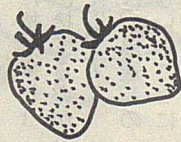
明鏡止水の境

がんばって!! お母さん



季節の話題

イチゴ



お母さんが刺繍してくれたアップリケ、そこから飛び出した様な真赤なイチゴ。今、出盛りです。

イチゴは、春から初夏にかけての舌の風物詩に、欠くことのできないものです。

食べ方は、人によって様々ですが、何故か、スプーンでつぶし、砂糖をまぶして、ミルクをかける、いわゆる、イチゴミルクに、大半は、落ち着くようです。

富士には月見草、カレーライスには福神漬、イチゴにはミルクがよく似合う。

いつ頃から始まったのか、誰が始めたのかは、それこそ定かではありません。イチゴに限らず、果物は、そのみずみずしさが、季節感を演出するもの、今が最高潮です。

六年生になつて



手賀小6年 下河辺 文子

今年、私達にとって、小学校最後の年です。私達は、入学して六年目の年に入ったのです。そして六年生になったのです。今までは、上級生がいたので、いろいろな行事などや、毎日の細かいおこないに上級生の言うことを聞いていればよい毎日でした。ところが、六年生になったいま、私達は、どの面を見ても、リーダーとして、下級生のめんどうをみたり、いろいろ

ろな事が、待っています。家の中でも、よく、父母から「六年生でしよう」などとよく言われたりして、いまからはとすることがあります。

でも、今年で小学生もおしまいのです。私に、六年生がつとまるかちよつとふあんです。

でも、自分のできることは進んでやって最後まで、やり通して行きたいと思っています。それをやり通すには、六年生の学習をいっしょにうけめいようと思ひます。そして、「いままでの六年生よりも、いい六年生みたいだね」と、だれにでも言われるような、どの面から見られても、はつきりしないような六年生になりたいと思います。

玉造風土記

(2)

郷土史

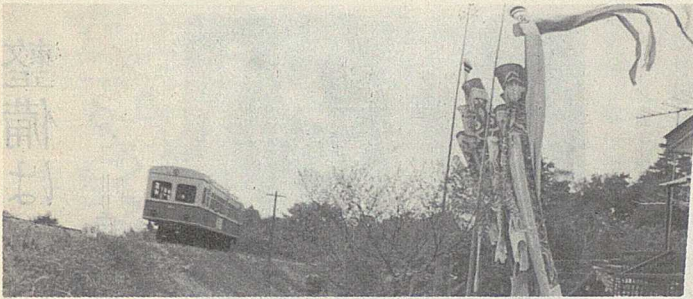
たまつくり

常陸風土記について、前書きを少し続けます。

風土記は、元明天皇の和銅六年（七一三年）の中央官命によって、地方各国庁が、郡郷（さと）の地名、産物、土地の肥沃状態、山川原野の名称の由来、古老の伝える旧聞異事等について書かれ、五年後の養老二年（七二一年）より以前の筆録と思われる。だが書いたかは明らかでないが、当時常陸国守であった石川朝臣難波磨（和銅七年任）時代の筆録としてよい。

しかし、養老三年春夏の頃から、同六、七年頃まで常陸国守、同按察使として在任した藤原宇合（うまかい）、またその下に記事採録者として、宇合と交渉のあった万葉歌人高橋虫麿が考えられる。即ち養老二年以前の筆録を基とし、宇合の在任時代に至って編述が完了したものと認められるのである。

玉造町社会科研究会



季節の

カメラ

陽炎の湖を
ゆっくりゆっくりと
汽車は渡ってゆく。
その音に、目をさました
鯉のぼりは、ねぼけ眼を
こすりながら、あいさつする。
光が重くたよう
春の午後

誕生おめでとう
ぎげいます



出産

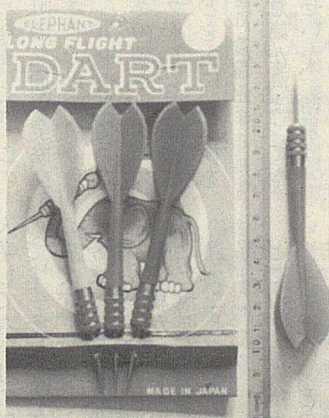
〈3月〉

赤ちゃん	続柄	保護者	部	落
吉田 靖子	二女	馨	西蓮寺	
川崎 良明	長男	正明	羽生	
狩谷 和信	長男	真佐雄	沖洲	
理崎 啓仁	二男	勝	手賀新田	
野原 秀則	長男	建勇	手賀新田	
小沢 明美	長女	芳也	羽生	

あぶないおもちゃ

最近、写真に見るような、
ダート矢が、出回っています。
このおもちゃは、身体に危
害を与えるおそれがあります
ので、見かけましたら、青少
年相談員又は、役場町民室ま
で御連絡下さい。

↓ ダート矢 ↓



☆ 訂 正
前号177号は168号のまちがいでした。訂正します。

印紙税が変りました

〓 5月1日から 〓

● 受取書
免税点が、3万円未満と
なりました。例

3万円以上50万円以下 50円
50万円超100万円以下 100円
● 預貯金証書、委任状、物品
売買契約書などは、今まで一
律20円でしたが、50円になり
ました。

あとがき

今月は、決算、財政
事情書掲載のため、二
ページ増となりました。
一番、苦勞したのは、
季節のカメラ、風が吹
く時は汽車が来ず、汽車が来
る時は風が吹かず、とかくこ
の世はと、広報子も、若いに
似合わず、痛感したしだいで
す。

宮内 金塚 額賀 鈴木 田中 海東 仲幸 根山 石川 羽成
氏 名 内 塚 賀 常 七 幸 幸 芳 け 成 口
な こ ふ 常 七 幸 幸 芳 け 成 口
よ か 雄 郎 喜 喜 蔵 衛 要

年令 六五 八八 七七 七八 六五 七一 五一 八四 七六 七七 五七
部 落 藤 井 根 古 須 高 宿 荒 宿 西 蓮 寺 根 古 屋 芹 津 舟 谷 西 浜
浜

おぢみき
申しあげます

宇佐見 弓削 芳紀 三男
土子 芳章 二男
栗又 真紀夫 長男
森作 員志子 二女
滝崎 昌志 長男
伊藤 智一 長男
橋本 友紀 長男
高野 貴子 長女
杖島 美帆子 長女
宮原 吉伸 長男
野里 恵美 長女
岡成 正晴 長男
羽成 正晴 長男

死亡
〈3月〉
勝子 裕子 隆一 哲也 紘二郎 定男 秀次 利己 清夫 益篤 文夫 文夫
緑ヶ丘 高須 羽生 川向 谷宿 上宿 横茂 加須 高宿 中宿 新田 新宿 浜